

平成 27 年度に出された意見に対する取り組み等

資料1

意見に対する取り組み等	委員の意見等	1 温海の地域コミュニティと自治会・公民館のあり方について
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇雇用機会の拡大を図るため、新たな立地や増設を行う事業者に対する優遇制度等をPRし、企業立地を促進する。</li> <li>◇温海地域においては、地域振興計画における地域特性を活かした地域振興策等により、新たな働き場の創出にも取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 温海に職場がないことで若年人口が流出している。特に家庭を持つと市内へ流出する傾向があるので、働く場の確保が重要であり、日治道の全線開通を見据えて鼠ヶ関IC付近に企業を誘致する。</li> <li>○ 自治会費等の負担軽減が求められており、事業を減らす、各種事業の負担金を参加費制にするなどの工夫も必要であるが、前例踏襲では何も変わらない。新たな仕組み作りが必要。</li> <li>○ 自治会所有の資産が負の資産に変わっている。税負担が自治会財政を圧迫しており、その支策を検討する必要がある。</li> <li>○ 自治会としてのイベントへの関わりが増えており、負担になっていることからその整理が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇地区担当制度を活用した集落活性化懇談会等において、自治会の課題等を協議テーマとし、自治会の中で課題の共有化・検討を促している。</li> <li>◇将来を見据えた単位自治組織のあり方、事業の持ち方の方の検討。</li> <li>◇単位自治組織の健全な財政運営に向けた検討。</li> <li>◇自治会所有資産の有効活用やコミュニティビジネスの検討。</li> <li>◇自治会における共通課題をテーマにした合同研修会や温海地域自治会長会での行政研修会を実施している。</li> <li>◇単位自治組織に対する自治会総合交付金・公民館類似施設整備等補助金を交付している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇若者や女性、退職者等の活躍の場の拡大と次代を担うリーダーの育成を推進する。</li> <li>◇鶴岡まちづくり塾温海グループによる地域活性化を目的にした活動に取り組むむなど、人材の育成と若者の交流・連携を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 婦人会、青年団、老人クラブなどの団体の解散により活動できる団体がなくなり、活力が低下している。団体活動の活性化のためには人づくりに力を入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇有線放送設備及び新たな情報伝達の仕組みの研究・検討を進める。</li> <li>◇自治会長会において、28年度、現在所有している各設備の状況、今後の改修計画などの調査を行い、具体的方策を検討する。</li> </ul>

# 平成 27 年度に出された意見に対する取り組み等

2 高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進	委員の意見等	意見に対する取り組み等
<p>○ 健康寿命の延伸が重要といわれているが、グラウンド・ゴルフは高齢者に適したスポーツで愛好者も多くいる。今後さらに大会の開催などを通して進行を図るためにも現在使用している友愛の森の森の拡張と駐車場の確保を要望する。</p>	<p>○ 健康寿命の延伸が重要といわれているが、グラウンド・ゴルフは高齢者に適したスポーツで愛好者も多くいる。今後さらに大会の開催などを通して進行を図るためにも現在使用している友愛の森の森の拡張と駐車場の確保を要望する。</p>	<p>グラウンド・ゴルフは高齢者を中心に人気のスポーツとなっており、高齢者に適したスポーツと言われ、年々競技人口が増えており、温海地域では友愛の森の他、湯見ヶ代運動場にホールが常設され、いつでもだれも楽しめる環境が整っており、多くの方々が利用されており、また、市では檜引地域にグラウンド・ゴルフ場を設置し、大きな大会も開催できる環境が整っています。</p> <p>要望のあった友愛の森の拡張と駐車場の確保については、土地の状況も大きく関係する事から、当面近接する温海中学校の施設・設備を有効利用しながら大会などを実施することが最良策であると考えられます。</p>
<p>○ 老人クラブは27自治会の内15しかなくなっている。老人クラブ活動は健康づくりにも有効で医療費の削減のもつながるものと思われる。財政的な支援もいただいているが、事務的負担も多く苦痛であるので、事務処理の簡素化をお願いしたい。</p> <p>また、ミニデイサービス事業が実施されているが、老人クラブと同じような事業が行われていることから、その整理をお願いしたい。</p> <p>なお、「老人クラブ」という名称はイメージが悪く、そこに抵抗を感じている人も多いのではないかと。</p>	<p>○ 老人クラブ活動は、高齢者の健康づくり、仲間づくりを進めるうえで重要な組織であると認識しており、老人クラブ活動が活性化することが健康長寿社会の実現に大きな効果をもたらすものです。</p> <p>市としてもその活動しやすい環境づくりには支援を惜しまないところでありますので、お互いの協議の中で事務手続の簡素化が図られればよいと考えております。</p> <p>ミニデイサービスについては29年度からの法改正に伴い介護予防総合事業として継続の予定ですが、その運営方法や対象者については新たな基準により整理が行われる予定となっております。</p> <p>老人クラブ活動も含めて今後協議、検討を進めてまいります。</p> <p>老人クラブの名称に関しては任意団体であることから、ある程度自由に決めることができるものと思われませんが、上部団体との関係もあるとのことですので、今後検討が必要であると考えます。</p>	<p>老人クラブ活動は、高齢者の健康づくり、仲間づくりを進めるうえで重要な組織であると認識しており、老人クラブ活動が活性化することが健康長寿社会の実現に大きな効果をもたらすものです。</p> <p>市としてもその活動しやすい環境づくりには支援を惜しまないところでありますので、お互いの協議の中で事務手続の簡素化が図られればよいと考えております。</p> <p>ミニデイサービスについては29年度からの法改正に伴い介護予防総合事業として継続の予定ですが、その運営方法や対象者については新たな基準により整理が行われる予定となっております。</p> <p>老人クラブ活動も含めて今後協議、検討を進めてまいります。</p> <p>老人クラブの名称に関しては任意団体であることから、ある程度自由に決めることができるものと思われませんが、上部団体との関係もあるとのことですので、今後検討が必要であると考えます。</p>
<p>○ 各自治会とも敬老会の出席者が少なくなっており、その開催方法について検討が必要ではないかと。高齢者扱いされることにも抵抗がある。</p>	<p>○ 各自治会とも敬老会の出席者が少なくなっており、その開催方法について検討が必要ではないかと。高齢者扱いされることにも抵抗がある。</p>	<p>敬老会の実施方法としては各自治会の方針となるわけですが、多くの出席者を得て開催されている自治会もありますので、情報交換を行うなどして賑やかな敬老会が開催されるよう期待しております。</p>
<p>○ 高齢者の食事の確保は重要な問題であるが、食事の配達を行っていたコンビニが撤退したことにより一部地域では食事の確保が大変になっている。食材の配達サービスはあるが、弁当の配達サービスなどの支援策が必要ではないかと。</p>	<p>○ 高齢者の食事の確保は重要な問題であるが、食事の配達を行っていたコンビニが撤退したことにより一部地域では食事の確保が大変になっている。食材の配達サービスはあるが、弁当の配達サービスなどの支援策が必要ではないかと。</p>	<p>市が実施している「食の自立支援事業」の利用者は少ない状況にありますが、27年度に社会福祉協議会が行った「語らい広場」には3回、延べ244人の参加があり、「あつたが弁当」は11回、延べ1,810人の方が利用しております。また、民間事業者による弁当や食材の配達サービスについても利用が可能な環境にあり、必要に応じて包括支援センターで紹介を行っております。</p> <p>一方でこれらのサービスについては利用できる地域が限定されるものもあり、全地域で利用可能なシステムの検討が求められています。</p> <p>「食の自立支援事業」は、29年度から介護予防総合事業の位置づけになることから、その基準内容の精査と民間宅配サービスなども含めて連携を密にし、事業を実施してまいります。</p>

# 平成 27 年度に出された意見に対する取り組み等

3 農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか	委員の意見等	意見に対する取り組み等
	<p>○ 日沿道の開通によって 345 号沿線に人が来なくなっているが、345 号沿線をはじめとして温海地域には埋もれている観光資源が多くあるにもかかわらず、PR されていないことから有効活用されていない。日沿道の全線開通後を見据え、観光協会が中心となって情報を集め、アイデアを出し合い、地域が一体となって観光振興に取り組むという意識改革が必要である。</p> <p>○ 新道の駅の計画があるが、「しやりん」のようなものではなく、新鮮な魚介類や温海の魅力あるお土産品をそろえ、温海にお金が落ちる仕組みにしてほしい。単に販売だけでなく、食事として提供することでターゲットを作り、観光 PR にも効果を発揮するように。また、集落内の店舗と連携して集落内にもお客さんが入るようにしてほしい。</p> <p>○ 旧温海高校の体育館を大学などの合宿に提供することで旅館への宿泊なども含めて経済効果は大きいと思われるので、この有効活用について市に提言してはどうか。</p>	<p>◇ 福栄地域の観光資源の PR については、「福の里」の事業として地域の自然資源や文化資源のマップを作成するほか、ホームページなどを活用した情報発信に努めている。</p> <p>地域の観光振興にあたっては、観光協会、行政、地域住民等が情報共有を強化し、魅力ある観光エリアをめざした取組を推進する。</p> <p>◇ 日沿道新潟県境区間 I C 周辺土地利用基本計画策定委員会において、休憩施設のあり方や運営方法について検討しており、さらに鼠ヶ関地域の活性化については、自治会を中心とした課題の整理や活性化策について協議検討する気運を醸成する。</p>
	<p>○ 温海かぶのブランド化については、栽培方法、漬け込み方法など、昔ながらの本物の温海かぶを作るための努力が必要である。また、旅館などに通年で提供できるよう雪室を使った保存などの研究も必要。</p>	<p>◇ 旧温海高校の体育館利用については、県から市に対して校舎も含めた無償譲渡の打診がありましたが、市としては、温海高校閉校前の平成 23 年、県に対して、有効活用策などの検討経過も踏まえ、施設を管理する場合の費用対効果なども考慮し、市としては譲渡を受けないという考え方を回答しておりましてご理解いただきたい。</p> <p>◇ プラント力向上対策協議会で作成した栽培基準の周知を図るとともに、生産者や加工業者等を対象として、ブランド化に対しての意識向上を図る講習会を実施している。また、保存方法の研究などの 6 次産業化の取組に対しても支援を検討している。</p>
	<p>○ シルクタウンプロジェクト 日本遺産登録に再度挑戦していただきたい。また、繭を生産する技術者の育成並びに生産から販売まで一体化を進めるなど様々な問題がある中で事業展開することになったが具体的な方向性を示していただきたい。</p>	<p>◇ 日本遺産の認定に向けて、文化庁から情報収集しつつ、本市の歴史や文化に造詣の深い専門家からの助言をいただきながら、ストーリーを組み直し再度申請に向かう。</p> <p>◇ 本市産業の近代化の礎となった養蚕、絹織産業の伝統を保存・伝承するとともに、その伝統を活かして絹織産業の新たな可能性を拓き、地域を活性化することを目指す事業。</p> <p>◇ プロジェクトについては、文化・産業の両面から振興策を展開しておりませんが、特に新たなブランドとして始まったキビソプロジェクトについて、より魅力的な商品開発や戦略的な販路開拓などの取組を後押しして、絹織産業の振興を図っていく。</p>

# 平成 28 年度 温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

資料 2

## 1 温海の地域コミュニティと自治会・公民館のあり方について

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
(1) 将来を見据えた単位自治組織等(自治会等)の健全な財政運営と役員の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の減少及び高齢化に伴い、役員の担い手確保が難しくなってきたり、また、会費収入等の自主財源が減少し自治会等の財政運営は厳しくなっている。</li> <li>自治会における事業の見直しや組織体制などを検討している自治会もある。</li> </ul>	
(2) 単位自治組織と地区自治会との連携や機能・役割分担の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民自治組織といわれる自治会は、現在 27 組織。世帯数の規模も大小ばらつきがあり、特に小規模の自治会では運営面等において課題を抱えている。</li> <li>地区自治会は、従来の地区公民館から改称され、生涯学習事業から福祉、防災などの地域課題にも取り組むことも期待されている。</li> </ul>	
(3) 自然災害など有事に備えた自主防災組織の機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や要支援者の増加、若者の減少、平日日中の人口減少、消防団員確保の困難等により、地域の防犯・防災体制の弱体化が懸念されている。</li> <li>消防団員 OB 等による、有事の際の活動を主とする機能別団員制度が 28 年度からスタートした。</li> </ul>	
(4) ハザードマップ(土砂災害・津波)の作成による避難体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>温海地域は地形的に集落が点在しており、土砂災害により孤立する恐れがあり、さらには、県の公表により海岸地域では新たな津波浸水域・被害の想定が示されている。</li> <li>避難場所や避難経路などについて、集落単位で意見交換を行い、津波ハザードマップは、海岸全集落において 28 年度の完成を目指す。</li> </ul>	
(5) 若者に魅力ある地域づくりやリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内に働く場が少ないことや地場産業の低迷、価値観の多様化等により、若者の転出傾向に歯止めがかからず、少子高齢化の大きな要因になっている。</li> <li>鶴岡まちづくり塾温海グループでは、3 つのテーマを設定し、グループワークに取り組んでいる。</li> </ul>	
(6) 地域と学校の連携による子どもたちの郷土愛醸成に向けた環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの環境では、小学校の統廃合により、これまで学校と地域が連携してきた各種事業の存続が難しくなってきたり、子どもたちと地域の関わり方が課題とされている。</li> <li>あつみ小学校では統合の 2 年前から受け入れ体制を整えるため、他の 3 校の地域を探索する行事を計画するなど新たな取り組みを展開した。</li> <li>地区自治会等により地域での学習機会を作っている。</li> </ul>	

# 平成 28 年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

## 2 高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
<p>(1)健康づくりの取組みがあること 介護を必要としない健康づくり(健康寿命の延伸)、介護予防事業等地域活動参加の推進、食生活改善の推進</p>	<p>心身健康づくりを推進する活動を支援しております。具体的には、研修会や地区会議等の充実を図り、保健推進員の自主的で積極的な活動が出来るように支援しています。 健康づくりに大きな影響を及ぼす食生活改善への取り組みを推進するため、食生活改善推進協議会との連携を強化します。また、温海地域での高齢者の自殺者が多いことから、平成 27 年度から鶴岡市こころの健康づくり重点地区となっており、こころの健康づくり・自殺予防に向けた啓発事業等に取り組んでおります。</p>	
<p>(2)日常生活(食事等)がきちんとできる地域であること 医療(治療、通院等)、通学、買い物等必要な交通手段の確保ができる仕組みづくり 冬期間の雪下ろし・除雪、暖房等の確保</p>	<p>食の自立支援やあたたか弁当、また、冬期間の雪下ろしや除雪、暖房費にも助成を行い、地元での生活維持に支援を行っております。 また一部地域においては月 2 回の診療所開設や買い物ツアーなども行われております。</p>	
<p>(3)高齢者・一人暮らしの方が孤立しない地域であること、交流があること。 家庭・地域の中で役割があること(知識経験をいかせる場の創出。誰もが役割を持ち地域の一員として活躍する。)</p>	<p>夏の一声運動、あんしん見守りコールなど孤立を防ぐための事業を行っており、また、冬期間など一時的に在宅生活が困難な場合には生活支援ハウスを提供しております。 庁舎でのワンストップサービスも3年経過し、住民にとっても相談しやすく、住民サービスの上で図られています。今後とも、この利点を生かし、これまで以上の連携・協力により迅速な対応と共に多様な生活支援と課題解決に向けて取り組めます。 各地域福祉計画や温海福祉センターが策定した「温海地域支え合いプラン」をもとに、三者の窓口の連携協力はもとより、自治会をはじめ地域の関係団体と連携しながら、地域福祉の推進に取り組んでいきます。 「温海地域災害時要援護者マップ」を活用しながら、津波災害等有事の際の災害時要援護者支援の具体的な連携協力体制について検討していきます。</p>	
<p>(4)一人ひとりが楽しみ・生きがいがあること。 生きがいや趣味があること。 ある程度の収入(こづかい)があること</p>	<p>温海地域内 22 集落においてミニサービス事業が行われており、健康維持や生きがいづくり、趣味の創出に効果が表れております。 就労希望者にはシルバー人材センターへの登録を進めておりますし、集落によっては独自で高齢者の働く場所の創出に取り組んでいる集落もあります。</p>	
<p>(5)若者が住みやすく子育てしやすい環境であること</p>	<p>少子化対策の一つとして、「鶴岡市子ども子育て支援ニース調査」や保護者の声を参考に、児童福祉施設を設置、運営しているあつみ福祉会と連携を図りながら、温海地域の子育てしやすい環境づくりを推進しております。平成 28 年度から一部保育園では普通の保育時間を 30 分延長し、午後 6 時までとしています。他地域の状況や保育ニーズを的確に捉え、更に検討を行っていきます。 また、人口流出の要因の一つと思われる、高校進学を機に転居する家庭も多いことから、高校生の通学負担の軽減に向けた対策を検討してまいります。</p>	

# 平成 28 年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

## 3 農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
(1)あつみ温泉の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日沿道の開通や山形・新潟DCなどを契機としてあつみ温泉の入客数が増加傾向にあるが、旅館の廃業や空き店舗も散在している。</li> <li>・これまでに整備された足湯や川治いの散策道などのハード整備を商店街の活性化に結びつけられていない。当初の目標であった「歩いて楽しい温泉街」づくりに向けて官民一体となって取り組む必要がある。</li> </ul>	
(2)交流を核とした地域振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行ニーズは、団体旅行から個人旅行へ、また、体験型観光の増加が全国的な傾向である。</li> <li>・そのため、温海地域に多くの人を呼び込み、滞在時間を延ばすとともに、いかにピーターを増やすかが課題である。</li> <li>・そのため、ユネスコ認定を受けた食文化や豊富な自然、伝統芸能などを組み合わせた体験型観光の推進が必要である。</li> </ul>	
(3)福栄地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで山間地に点在する5つの集落が独自に地域資源を活用したイベントや体験事業を実施してきた。</li> <li>・少子高齢化、人口減少により集落単位での活動が困難な状況にある。恵まれた自然環境や食文化など地域資源を十分活かしていない。</li> </ul>	
(4)一次産業の振興(森林資源の活用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材価格の低迷による森林所有者の施業意欲の低下、高齢化や後継者不足により林業従事者の確保が困難となっている。</li> <li>・また、温海カブの伝統農法である焼畑栽培の継承が深刻な問題となっており、中山間集落の維持も危惧される。</li> </ul>	
(5)一次産業の振興(温海農業の確立)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年からの米政策の見直しやTPPなどにより、農家を取り巻く状況は厳しくなることが予想される。</li> <li>・温海地域は、平場が少なく米生産の効率が悪い。自由競争になればブランド米の生産が重要になる。米以外の農作物との複合経営を推進し、農家所得を確保する必要がある。</li> </ul>	
(6)関川しな織センターの改築及び地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関川しな織協同組合が事業主体となり、新たなセンターを建設するが、新センターの活用も含めた、しな織の生産拡大や後継者の育成及びしなの花を活用した新商品の開発など、関川地域の活性化を図る必要がある。</li> </ul>	
(7)焼畑あつみかぶのブランド力向上及び安定生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年生産量の減少や品質の低下が懸念されている。</li> <li>・栽培基準を満たし認定された「焼畑あつみかぶ」は消費者にまだまだ知られていない。ブランド化について、生産者・加工業者の意識不足が考えられる。</li> </ul>	

# 平成 28 年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

## 4 交流・連携の推進と基盤の整備

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
<p>(1) 鶴岡市橋梁長寿命化修繕計画に基づく計画的な整備</p>	<p>・温海地域の橋梁は 152 橋があり、建設後 50 年以上を経過した老朽化橋梁は 20 年後には 73% になります。そのため、今後老朽化する橋梁の増大に伴い、橋梁の維持管理方法を従来型の事後的な修繕及び架替えから、予防的な修繕及び計画的な架替えを行っていく。 今年度は早田橋の架替え、向田橋代換えの道路整備を予定している。</p>	

# 平成28年度温海地域活性化事業

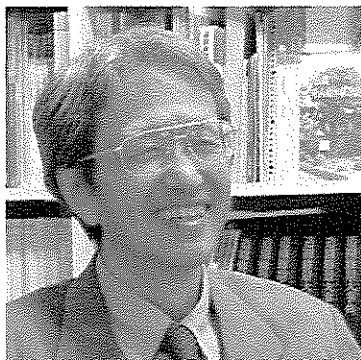
資料3

No.	事業名	事業の概要
1	あつま体験旅行推進事業	<p>NPO法人自然体験温海コーデイネットの活動を補完的に支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人が配置する「観光コーデイネター」の人件費、活動経費及び事務所経費に対する支援</li> <li>・教育旅行誘致活動については、官民連携した取り組みを展開</li> <li>・一般向け着地型パンフレット作成(一般向け情報発信にも着手)</li> <li>・自然体験活動指導者(NEALリーダー)のスキルアップ</li> <li>・販売促進活動(特に、WEB上での情報発信)</li> <li>・体験メニューの本格運用(イベント・個人向け)</li> </ul>
2	温泉街賑わいづくり促進事業	<p>出羽商工会が中心となって実施する「商店街活性化に資する事業」を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなしまつりの開催(10月2日開催) <ul style="list-style-type: none"> <li>ばら園周辺を主会場にしたオープンカフェやステージイベント</li> </ul> </li> <li>朝市広場を活用したクラフト展、フリーマーケット</li> <li>・地元商店関係者が取り組む街路灯への花鉢飾り</li> </ul>
3	焼畑あつまみかぶブランド力向上対策事業	<p>焼畑あつまみかぶのブランド力向上と栽培基準の周知徹底など、「焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会」が行う活動を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者や加工業者等に対しブランド化の意識向上を図るための講習会の開催</li> <li>・「焼畑あつまみかぶ」の情報発信、PR活動</li> <li>・「焼畑あつまみかぶ」写真コンテストの実施(募集期間 4月11日～11月11日)</li> <li>・行政、JA、生産者等の役割の明確化</li> </ul>
4	しなの花活用プロジェクト	<p>未利用資源である「しなの木の花」を活用した新商品を開発し、その事業化による地域所得の向上と地域振興を図るため、「しなの花活用プロジェクト研究会」の活動を支援する。(山村活性化支援交付金活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採取・保存原料の前処理及び加工法の検討</li> <li>・成分のメタボローム解析</li> <li>・各種機能性(有効性)試験及び安全性試験</li> <li>・試作品製造</li> <li>・原木(種)及び生育環境と資源量(しなの木の花)調査の実施</li> <li>・原料安定供給対策に関する研究会の開催</li> <li>・マーケティング調査</li> </ul>



No.	事業名	事業の概要
5	都市・農山村交流促進事業 (小国ふるさと振興会)	<p>市の行財政改革に伴い「小国交流促進センター」を公の施設から廃止し、平成27年4月1日から「小国ふるさと振興会」に無償貸付を行っている。このことに伴い、施設管理委託料を廃止したが、「小国ふるさと振興会」が取り組んできた交流事業の円滑な継続と組織運営に支障が生じないよう一定期間(事業期間:平成27年度～平成29年度)に限り交流事業の活動経費に対して支援を行うものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度:交流事業や運営管理経費の見直しと利用料等の検討</li> <li>・平成28年度:利用料等の見直し内容の調整・決定</li> <li>・平成29年度:周知期間</li> </ul>
6	福栄地域協議会「福の里」地域活性化事業	<p>福栄地域の集落運携と地域活性化を図るため、地域おこし協力隊の協力を得ながら、福栄地域協議会「福の里」が実施する事業等に支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リーダー育成のための先進地視察や研修会の開催</li> <li>・ホームページや情報誌を活用した情報発信</li> <li>・地域資源マップの作成</li> <li>・体験イベントの開催</li> <li>・地域おこし協力隊が実施する事業への協力</li> </ul>
7	あつみ温泉集客イベント実施事業	<p>あつみ温泉魅力づくり推進委員会が実施する、あつみ温泉野外能楽「せせらぎの能」を支援する。(6月25日開催済み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せせらぎの舞台を活用した能楽の競演(黒川能、山戸能)</li> <li>・市内伝統芸能などと温泉街を結びつけた賑わいづくり</li> </ul> <p>これまでは、8月第一土曜日(平成27年度は8月第二土曜日)に開催してきたが、平成28年度は、伝統の“あつみ温泉ばら園まつり”が50回目の節目を迎えることを踏まえ、ばら園まつりの開催期間である6月開催とし、地域の団結力が発揮されるよう組み立てるものとする。</p>

## ～温海地域の地域振興について～



写真：長野県辰野市景観講演会 HP より

### 堀 繁 ほり しげる

東京大学アジア生物資源環境研究センター センター長、教授

### プロフィール

1952年生まれ。環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、1996年より現職教授、2013年より現職センター長。国土審議会、歴史的風土審議会、国会等移転審議会の各専門委員の他、多数の国、県等の委員を歴任。地域の発展を前提とした景観、観光、活性化、まちづくりの計画・設計とその理論化を中心に活躍中。

### 著書

「景観からの道づくり」「フォレストスケープ」「景観統合設計」「スポーツによるまちづくり、地域づくり」「景観と空間文化」など